

香港の社会運動における「文化的なもの」

—スローガン、シンボルが構築する物語—

WANG Xiyao

社会運動において、「文化的なもの」とは、運動参加者が共有するアイデンティティアイデア、理念、価値観などを指す。これには、運動のメンバーが共有する価値観や信念、運動に関連するシンボルや言説、運動の集団的アイデンティティが含まれる。社会運動の「文化的なもの」は、運動の支持を形作り、その行動と意思決定に影響を与え、その持続可能性と組織に影響を与える可能性がある重要な要素であろう。社会運動における「文化的なもの」の例には、運動のメンバーの集合的なアイデンティティや価値観だけでなく、共有されるスローガン、音楽、アート、宣伝物、シンボルなどが含まれる。本稿では、2019 年の香港における逃亡犯条例反対運動を事例に、運動の中で現れたスローガンとシンボルを取り上げ、その「文化的なもの」を通じ、運動参加者の主張と価値観の変容を考察する。また、言論統制のもとで、社会運動における、「文化的なもの」あり方も考察する。

本稿は、全六章から構成されている。

第一章では、社会運動と文化の研究、社会運動と弾圧の研究、香港の社会と政治の研究を紹介し、本稿の研究背景、研究目的、研究方法を明らかにする。そして、「文化的なもの」の中、スローガン、色、覆面といった三つの要素を選定し、先行研究を紹介しながら、その三つの要素を選定した理由と分析方法を紹介する。

第二章では、逃亡犯条例発生した香港の政治的な背景を明らかにするため、香港返還後の社会運動の経緯を紹介する。まず、「ヴィクトリア公園で六四を記念するキャンドルライト集会」、「香港七ーデモ行進」、「反国教運動」といった雨傘運動以前の社会運動を紹介し、その時の社会運動の焦点は、香港と中国本土の矛盾であったことを紹介した。そして、「雨傘運動」と「旺角暴動」といった二つの社会運動を紹介し、本土意識の台頭を明らかにする。そして、本章では言及した社会運動の中で現れた「文化的なもの」を分析し、その時の「文化的なもの」の特徴を考察する。

第三章では、逃亡犯条例反対運動の背景と経緯を紹介しながら、「文化的なもの」が現れたきっかけを明らかにする。

第四章では、香港の逃亡犯条例反対運動中に形成された「文化的なもの」について詳細に分析する。この章は三つの主要なセクションに分かれている。最初のセクションでは、運動中に使用されたスローガンの形成と変化に焦点を当てている。スローガンは、最初は逃亡犯法改正案の撤回を求める具体的な要求から始まり、次第に民主化と政治改革といったより基本的な政治体制に関わる要求へと発展した。スローガンは、政府への訴え、共感を呼びかけ、警察の暴力行為への証言、政治的対話を促進するために使用された。重要なスローガンとして「五大訴求 缺一不可」と「光復香港 時代革命」が挙げられ、これらは運動の発展に伴い、運動者の主張の変容を考察する。次は、運動中のシンボル、特に「黄」と「藍」の色の対立に注目している。黄色は自由と民主主義を支持する運動参加者の象徴として使われ、黄色の傘やリボンなどが運動の視覚的なブランドとアイデンティティを構築した。一方で、藍色は政府と警察を支持する人々によって使用され、秩序の回復を象徴した。この色の対立は、運動参加者と政府支持者を識別する手段となり、政治的意味合いを持った。最後のセクションでは、抗議活動中の覆面の使用に焦点を当てている。抗議者は、警察の攻撃から身を守り、身元を隠すためにマスクを着用した。香港政府は一時的に「覆面禁止条例」を制定したが、強い反発を招いた。マスクの使用は運動の重要なシンボルとなり、特に香港国家安全法の施行後は、海外の抗議活動においても身元を隠すために使用されるようになった。

第五章では、香港国家安全法(国安法)施行後の逃亡犯条例反対運動の変化について紹介する。国安法成立後、香港における社会運動と表現の自由が大きく制限され、特に「光復香港時代革命」というスローガンは国家分裂と政府転覆の意味を持つと見なされるようになった。この法律の下で初の裁判では、唐英傑氏が同スローガンを使用したことで重大な罪に問われ、最終的には両罪で有罪判決を受けた。これは政治的なスローガンの解釈と扱い方に関する法的および社会的な問題を提起した。国安法により、「煽動他人分裂国家罪」で最高 10 年、「恐怖活動罪」で無期懲役が科される可能性がある。国安法施行後、禁止されたスローガンを使用する抗議者が逮捕され始め、運動者は創造的な表現方法を模索している。文字遊びやコード、象徴的な漢字、英語などを使って抗議を続けている。この章は、国家安全法以降の香港における政治的抗議の新しい現実と、それに対する市民の創造的な対応を描き出している。

終章では、本稿の内容と結論をまとめ、社会運動における「文化的なもの」の研究の重要性を改めた強調する。特定の社会的環境下で生まれる抗議テキストの特徴や、それに対する規制についての研究は、権威主義社会における社会運動に新たな視点を提供する可能性を示唆する。